

平成31年度(2019年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験問題
西洋音楽史

I. 次のA群の各項にもっとも適切と思われるものをB群から選び、その記号を書きなさい。

A群:

- 1) 聖フィリッポ・ネーリらが集会で民衆的な宗教歌を歌ったことに始まる音楽劇で、その初期の例としてカヴァリエーリの《魂と肉体の劇》があげられる。
- 2) モテットから発達した器楽の楽種で、段落で区切られることなく模倣対位法によって展開される。のちにフーガへと発展した。
- 3) ジョン・ゲイの《乞食オペラ》に基づいてブレヒトとクルト・ヴァイルが共作したオペラ。
- 4) モンテヴェルディの《タンクレディとクロリンダの戦い》で、馬の早駆け、剣のぶつかりあいなどを表すために用いられた激しい表現様式。
- 5) 「狂気の」という意味のイベリア半島起源の3拍子系の舞曲。
- 6) ウェーバーのオペラ《魔弾の射手》の「狼谷」の場面におけるように、音楽を背景として対話が行われる音楽劇の一形態。
- 7) おそらくはイギリスから大陸に伝えられ、15世紀フランスを中心に用いられた書法で、3度と6度が平行進行で同時に響く。
- 8) 11世紀の修道士で視唱を教えるために ut, re, mi, fa, sol, la という一連の音節を案出し、ソルミゼーションの基礎をつくった。
- 9) 18世紀中葉のドイツで、「感じる」という意味の言葉に由来し、「感傷性」ないし「多感性」を表すようになった様式。
- 10) 1497年、ウィーンとインスブルクで皇帝マクシミリアン1世の宮廷付き作曲家となり、「作曲家」としての職を得たはじめての人物。

B群:

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| a) stile concertato | k) folia |
| b) Happy end | l) Empfindsamkeit |
| c) monodrama | m) Guido d'Arezzo |
| d) canzona | n) Josquin des Prez |
| e) ricercare | o) Henricus Isaac |
| f) stile concitato | p) Die Dreigroschenoper |
| g) Glareanus | q) oratorio |
| h) lauda | r) melodrama |
| i) lamento | s) fauxbourdon |
| j) copula | t) style galant |

II. 次にあげた項目から4つを選択し、簡単に説明しなさい。解答用紙の()内を選んで項目の番号を記すこと。

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. ヒンデミット事件 | 5. 第2の作法 (seconda pratica) |
| 2. 分割合唱 (cori spezzati) | 6. ムシケー |
| 3. 《ロム・アルメ L'homme armé》 | 7. 《世の終わりのための四重奏曲》 |
| 4. ジングシュピール | |

III. 以下に挙げる「楽派」について、主要な作曲家名や作曲様式の特徴、および西洋音楽史上の意義について述べなさい。

- 1) 新ウィーン楽派
- 2) 国民楽派
- 3) フランドル楽派

IV. 以下について具体的に説明しなさい。

- 1) オペラ誕生の経緯
- 2) 19世紀前半のパリの音楽文化

日本音楽史

1. 次の文の (ア) から (ノ) に当てはまる語を、次頁の語群から選んで答えなさい。

- (1) 世界最古の印刷楽譜は、1472 年に日本の (ア) で出版された (イ) の楽譜である。その翌年にヨーロッパ最古の印刷楽譜 (グレゴリオ聖歌集) が出版された。日本音楽の楽譜は、楽曲のすべてを記すというより、耳と体で覚えた曲を思い出すための手段と考えられてきた。声乐譜についていえば、声明では、角度の異なる短い線を続けて旋律線を記す楽譜を用い、これを (ウ) と呼ぶ。これに類似した記譜は、平家物語を (エ) の伴奏で語る平家 (平曲)、(オ) の詞章をうたう謡曲、三味線を用いた語り物音楽の (カ) などで用いられている。器楽譜についていえば、楽器の旋律を口で唱える (キ) 譜が多くのジャンルで用いられ、弦楽器の弦を押さえる位置を記した (ク) 譜、管楽器の (ケ) 譜などがある。
- (2) 現在の雅楽は、中国系の (コ) と、朝鮮半島系の (サ) に分類される。これらは、楽器編成や楽曲、舞の有無といった演奏形態が異なるが、ダブルリードの管楽器 (シ) は、すべての楽曲に共通して用いられる。
- (3) 南北朝時代 (1336 ~ 92)、大和猿楽の一つの結城座から出た (ス) は、三代将軍 (セ) の愛顧を得て京都に進出した。その子 (ソ) は、(タ) 形式を完成に導き、『風姿花伝』など多くの芸術論を残した。
- (4) 江戸時代以降、日本で最も多くの人々に親しまれたと考えられる楽器は、(チ) 本の弦を張った箏と、3本の弦を張った (ツ) である。後者は、日本の代表的演劇である (テ) および人形浄瑠璃に欠かせない楽器としても発達し、劇場専属の杵屋姓の演奏者による (ト)、大阪で生まれた (ナ) 節、京都の人が江戸で大成させた (ニ) 節など、様々な種目において今なお重用されている。
- (5) 小泉文夫は、民謡などの分析によって、日本音楽のリズム原理を二つの側面から捉えて、(ヌ) 様式と (ネ) 様式という名称で分類した。前者は、拍節のない自由なリズムで歌う様式で、雅楽の声乐 (ノ) にもこの様式がみられる。

【語群】

声明、唐楽、高麗楽、林邑楽、催馬楽、伎楽、能楽、歌舞伎、浄瑠璃、長唄、地歌、端唄、義太夫、常磐津、清元、新内、箏箏、龍笛、琵琶、三味線、胡弓、尺八、夢幻能、三番叟、追分、万歳、八木節、木遣り、音頭、博士、教授、孔名、勘所、唱歌、京都、高野山、観阿弥、世阿弥、黙阿弥、足利義満、徳川家光、13、7

2. 次の語句の中から、4つを選び、その内容を簡潔に説明しなさい。《 》は曲名で、複数のジャンルに存在する曲名の場合、ジャンルの選択や記述方法は任意とする。

四拍子、音取り、夢幻能、笙、胡弓、一節切、十七弦箏、檢校、文楽、黒御簾音楽、キリシタン音楽、新日本音楽、大和楽、木遣り、万歳、都をどり、八景物

《越天楽》、《六段の調》、《那須与一》、《うつぼ猿》、《紅葉狩》、《道成寺》、《忠臣蔵》、《越後獅子》

3. 日本音楽における演奏の「場」のありかたについて、自身の知る事例をあげながら、自由に述べなさい。